

南相馬市飯崎地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 病害虫防除暦に沿った病害虫防除の徹底により収量・品質の確保を目指す。
- 地域の土地利用の合意形成を図り、水稲、大豆、タマネギのブロックローテーションの適正な実施による収量・品質確保を目指す。
- 大豆所得の試算、水稲・大豆、タマネギのブロックローテーション体系の推進を行う。

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【R3年作付面積】水稲：32.7ha、大豆：27.2ha、タマネギ1.97ha
- 基盤整備事を契機に任意組織として設立、H31年法人化
飯崎地区の担い手組織となる
震災後、H26年に試験的に大豆を導入。H28年より本格的に作付けを開始し、徐々に面積を拡大（H28年：8.9ha → R3年：27.2ha）
- R6年から、水稲、大豆、タマネギ、子実用とうもろこしでブロックローテーションを実施



飯崎生産組合作付ほ場

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた品種選定>

- H30年に「里のほほえみ」を試験的に導入
- 収穫時の脱粒が少なく、作業性が良いことから、R3年に全面積品種転換

<品目別のブロックローテーション実施、病害虫防除の徹底>

- 作期が異なる品目の組み合わせや、品目別で団地化・ブロックローテーションを行うことで、労力分散、適期作業を実施
- 実証ほ場にて普及部作成の病害虫防除暦に沿った防除を実施

<スマート農業を活用した大豆栽培>

- 自動操舵システム付きトラクタを使用した大豆播種、ドローンを使用した農薬散布により病害虫防除を実施することで、作業負担の軽減、効率化を実現
- 営農管理システムによりほ場や作業の情報を一括管理



ドローンによる防除及び
R6年産大豆ほ場の様子

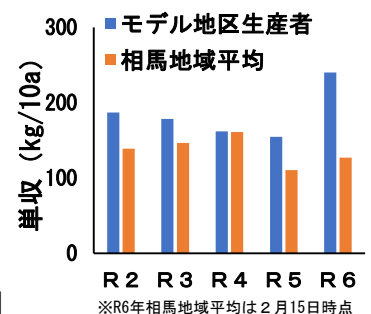
4 取組成果

<ブロックローテーション、病害虫防除の実施による収量確保>

- ブロックローテーション、病害虫防除の徹底、適期作業の実施により、相馬地域の平均単収と同等～上回る単収を確保
実証ほ場 全刈収量235kg/10a、子実における虫害の割合 8.4%

<安定した農業所得の確保>

- R6年産の大豆収支（10aあたり）
収入 104,962円(交付金含む) - 支出 84,384円 = 所得 20,578円



5 課題（7年度のポイント）

- カメムシ対策として、フェロモントラップ設置による発生時期の把握や病害虫防除暦により適期防除の徹底を支援する。
- 水稲・大豆・タマネギ・子実用トウモロコシの輪作体系における収支の試算を行う。